

### 3 実施スケジュール

実施にあたっては、八つの基本要素を六時間で体験できるように構成して、実施スケジュールをつくりました。それが次ページの図1です。

ここでは、一時間目から六時間目までの概要を示しています。

一時間目は、クラス会議の立ち上げです。前向きな話し合いをするための雰囲気づくりを学びます。主な活動は、椅子だけで輪になることと、コンプリメントの交換です。

コンプリメントとは、簡単な謝辞のことと、あなたがたい言葉を自分や他者に向けます。

「いい気分になったこと」「感謝したいこと」「誰かをほめたいこと」などを輪になって伝えます。この時間に学ぶことは、

○あたたかな言葉を交わし合うことで、前向きな雰囲気をつくること

○発言の順番を守ることと互いを尊重すること

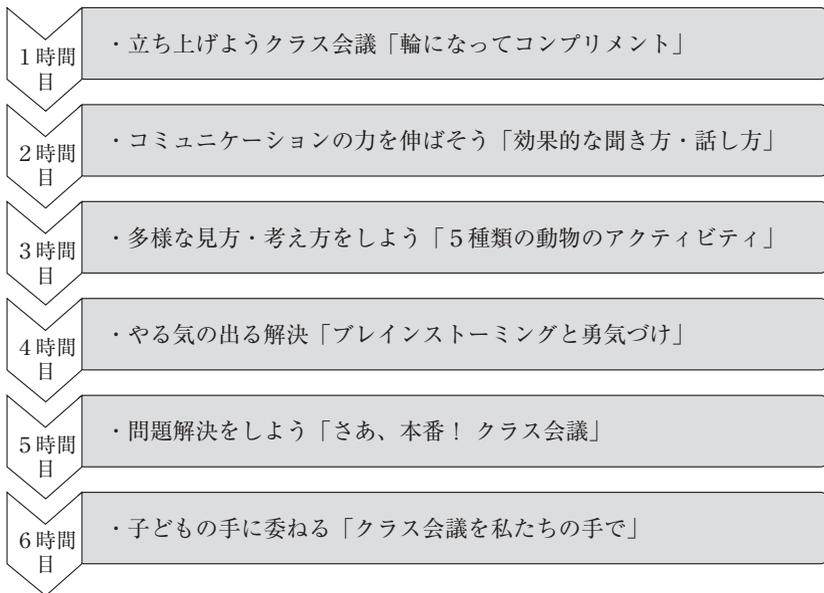


図1 クラス会議プログラム実施スケジュール

などです。

二時間目は、話し合いを効果的に行うためのコミュニケーションの方法を学びます。傾聴や人の感情に配慮したものの言い方を学んだあと、クラスの話し合いのルールを決めます。

この時間に学ぶことは、

○聞いていることを態度で示す聞き方は、よい人間関係をつくること

○人の感情に配慮した言い方は、よい人間関係を つくること

○人を責めても問題は解決しない。そして、話し合いの目的は、問題を解決することだということ

○自分たちで話し合いのルールを決めることなどです。

三時間目は、みんなそれぞれ違う見方や考え方をしている、見方・考え方は人それぞれであるということを学びます。五種類の動物から、自分が「一日だけなりたい動物」を選びます。そして、なぜそれを選んだのか、そしてなぜ他の動物を選ばなかったのかを考え、理由を発表し合うことで、同じものを見ても人によって見方や感じ方が違うことを知ります。

この時間に学ぶことは、

○物事には多様な見方や考え方があること

○人によって見方や考え方は異なること  
などです。

四時間目は、勇気づけに基づく他者支援の方法を学びます。例えば「忘れ物をなくしたいけれどもくせない子の相談にのる」という仮想の場面を想定し、その子を助けるためにアイデアを出し合う活動をします。

そのときに、「ブレインストーミング」という方法を体験します。

この時間に学ぶことは、

○人は責めても罰してもやる気にならないこと

○人がやる気になるのは安心したときであること  
ということです。

ブレインストーミングを行う際の約束としては、

- ① 思いついたらどんどん言う
- ② 人の話は最後まで聞く
- ③ 人の意見はまずは「いいね」という態度で聞くなどが挙げられます。

五時間目は、子どもたちの実際の生活に則して出された問題を解決します。教師が司会をし、板書をし、役割のお手本を示します。

六時間目は、子どもたちに、司会、副司会や黒板書記などの役割を、できるところから体験してもらいます。前著『赤坂版「クラス会議」完全マニュアル』には、〈司会マニュアル〉や〈黒板書記マニュアル〉がついているので、それを渡してチャレンジさせてもいいでしょう。しかし、どうしてもこの時間からさせなくてはならないというものはありません。子どもたちの様子を見て段階的に委任すればいいのです。

実施スケジュールは、必ずしも順番にしなければならないというものではありません。一時間目から四時間目に学んでほしい内容は、話し合いをしながら教えてもいいし、道徳や学級指導のなかで伝えてもいいのです。

それに、一度の指導で身につくような簡単なことではありません。繰り返し繰り返し、定着するま

で伝えます。これらの内容が理解されないところで、話し合いだけ繰り返してもなかなか効果が上がらないのも現実です。